

昭島市産業振興計画についての 報告書

～前半期の評価・検証及び後半期の具体的な取組～

令和5年3月

昭島市産業活性化のための協創プロジェクト

はじめに

昭島市では、平成 29 年度から令和 8 年度までの 10 年間の産業振興の方向性と具体的な施策の計画を定めた「昭島市産業振興計画」を策定し、「つながる・ふれあう・めぐるみずみずしい暮らしをつくる産業振興」をコンセプトに、事業者、関係団体と連携し、計画に基づく施策に取り組んでいます。

本計画においては、事業の実行と共に評価と見直しを行い後期計画の策定を実施する会議体を設置することとしております。これを担う機関として、平成 30 年度に、昭島市産業活性化のための協創プロジェクト(以下「協創プロジェクト」という。)を設置し、協創プロジェクトメンバーである昭島市、多摩大学、昭島市商工会、昭島観光まちづくり協会、多摩信用金庫の連携のもと、本計画の実現を図ってまいりました。

中間年を迎えるにあたり、前半期の評価・検証の中で、全体的な理念や方向性については変更することなく、コロナ禍で実施できなかった事業も見直し、後半期における具体的な施策について検討しました。取りまとめにあたっては、協創プロジェクトでの検討のほか、昭島市とかかわりの深い産業振興機関である東京都立産業技術研究センター、東京都中小企業振興公社、東京みどり農業協同組合から御意見をいただき、本報告書にまとめました。

今後、地球規模での脱炭素化や新型コロナウイルス感染症の拡大を機に一気に加速したデジタル化への対応など、目まぐるしく移り変わる時代の変化に柔軟に対応していく必要があります。後半期における取組を着実に実行することで市内産業の発展と振興を図り、市の将来都市像である「水と緑が育む ふるさと昭島」の実現を共に目指してまいります。

前期計画の評価と見直しについて

施策概要	評価・課題	後期計画に向けて
騒音対策、環境改善に関する設備投資への支援	「ものづくり企業等地域共生推進補助」を実施。制度開始時のニーズへの対応は終了したが、住工混在が進むことで新たなニーズが見込まれるため、制度の継続が必要。	継続
技術・商品のPR	市役所市民ロビー「産業展示コーナー」での展示を実施。コーナーを引き続き活用しながら、更なるPR方法の検討が必要。	継続
昭島の工業力のみえる化	大学生による「企業パンフレット」、商工会による「昭島市ものづくり工業名鑑」、観光まちづくり協会による「町あるき、ワークショップ」、産業まつりHPでの「ものづくり魅力発見ブース」等を実施。引き続き、昭島市の工業力をPRしていくことが必要。	継続
事業所による出前授業の体制確立	新たな企業・学校間の調整を試みたが、強い希望がなく調査に至らなかった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、事業自体を実施できない期間が続いたため、双方の関係性の再構築が必要。	継続
近隣の大学、高専、工業高校等と連携した人材確保支援	採用動向の変化が激しく、参加者数が伸びなかった。協力大学、本事業に関心を示す生徒も少ない。事業内容の変更が必要。	変更し実施
市内事業所に対する勉強会等の開催支援	広域連携により実施し、一定の効果を示している。新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン実施していたが、事業所間の交流も意図しており、効果的な方法を検討し継続。	継続
従業員向け 福利厚生サービスの充実	勤労市民共済会の会員向け福利厚生サービスを実施。現在の事業を継続しながら、さらに市内事業者の活用の拡充を目指す。	継続
たま工業交流展の参加支援	市内事業者の参加数は目標に達していないが、多摩地域全域の事業者が出展しており、事業実施の意義は大きく、継続した開催が必要。	継続
就職面接会の開催	新型コロナウイルス感染症の影響及びハローワークのDX推進により、大規模就職面接会は実施されなくなった。就職希望者の選択肢が途絶えないよう、連携先を増やし方法を模索していくことが必要。	継続
大型商業施設とのコラボレーション	検討したが実施に至らなかった。人の集まる大型商業施設が市内にあるメリットを活かすことは重要であり、実施の検討を継続。	継続
「あきしまの水」ブランド推進	「深層地下水100%水道水のまち」について、市民の認知は高まった。拝島ハイボール、無料給水スポットの受賞等により、メディアに取り上げられる機会が増え、市外へも周知が広がった。ブランド理念等の周知をとおして、昭島の魅力を引き続き発信することが必要。	継続
空き店舗オーナーと創業者のマッチング	令和29年度～令和元年度に「空き店舗活用補助」を実施。一定の効果があつたものの、「まちの賑わいを再創出したい」行政とそれが主目的ではない事業者とのミスマッチなど課題があり、実状に合っていない施策と判断し事業を終了した。	終了
商店会等活動の支援・魅力向上	「商店街チャレンジ戦略支援事業費補助」「がんばれ商店会等補助」を実施。商店会の活性化に一定の役割を果たしている。制度の継続が必要。	継続
特色ある個店づくり	検討したが実施に至らなかった。商店の独自性や魅力を高めるための個別支援を行うことは、にぎわいと活気に満ちた商業の振興を図るために重要であり、事業内容を見直す。	変更し実施
創業セミナーの実施	広域連携による補助金活用終了後、開催数は目標に達していないが、セミナーは継続して実施。昭島市単独での実施以外にも、関係機関と連携し、創業者のニーズをとらえたセミナーの共催を模索することが必要。	継続
まちゼミの実施	商工会が平成29年度から実施（令和29年度～令和元年度は市で一部補助）。年ごとに充実してきた事業であり、事業所の関心も高い。市からの補助金は3年間の年限で終了したが、事業は継続して実施。	継続
昭島ブランド・フードグランプリの開催	イベントは大変盛り上がり、一定の成果はあつたと考えるが、イベント後の発展につながらず、第7回をもって終了とした。	終了

施策概要	評価・課題	後期計画に向けて
まちコン等地域イベントの開催	「まちコン」で市内商業の活性化、婚活支援で「将来的な居住地として昭島を選択してもらおう」という、2つの目的を合わせた事業として、平成30年度・令和元年度に実施。一定の効果があつたものの、2つの目的の両立の困難性や費用対効果の課題があり、広域連携の補助金終了をもって事業を終了した。	終了
市民が農業に触れ合う機会の創出	農業に対する関心を高め、理解を深める機会として重要であり、継続が必要。	継続
農家の経営指導をサポート	農地の法律、農地保全、生産緑地制度、農業技術、融資等多岐にわたる内容を、各組織がそれぞれの専門性をいかしサポートすることは重要であり、継続が必要。	継続
直売所マップの作成	平成29年度に作成。そのマップを活用し、市内農業のPRを継続して行うことが必要。	継続
学校給食での地場野菜の使用	学校給食における地場野菜の使用率は、ほぼ目標を達成できた。食育の観点からも、学校給食への出荷の継続は必要。	継続
市内飲食店や食品加工会社での地場野菜の活用促進	平成30年までに市内で地場の農畜産物が使用されている状況について調査した。その情報を活用し、さらに地場の農畜産物の活用促進を図ることが必要。	継続
大型商業施設とのコラボレーション	令和元年度まで実施。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により中止したが、今後も継続した取り組みが必要。	継続
認定農業者支援	効率的かつ安定的な農業経営を目指す認定農業者に対する支援を実施。継続した支援が必要。	継続
農業特産品共進会	農地・農業者数の減少に伴い、出品数は減少しているが、市内の新鮮で安全な農畜産物や加工品を通じて食卓に直結する都市農業をアピールする機会として大切であり、継続した実施が必要。	継続
市内製造業の見学受け入れ体制の充実	観光まちづくり協会の町あるきの一環として新規受け入れ企業を年々開拓し充実させてきた。新型コロナウイルス感染症の影響により企業訪問ができない時期が続いたが、企業の状況を見ながら再開が必要。	継続
農ウォークなどの体験イベントの実施	農家を見学し、都市農業の実態について知り、体験を通して昭島市の農業に対する理解を深めるものであり、継続が必要。	継続
観光資源の掘り起し	平成30年度から5年間、近隣自治体との広域連携により観光資源の掘り起しを実施。観光資源の模索は、常に継続して行うことが必要。	継続
シティプロモーション施策の充実	ロケーションサービスやフォトコンテストを実施。同事業を継続し、さらにSNSも活用し、引き続き昭島の魅力を発信していくことが重要。	継続
観光まちづくり協会との連携・支援	観光まちづくり協会との連携・支援により、観光活動やまちづくりの充実を図り、広報活動、イベント、観光案内等市内外へ昭島市の魅力を発信した。引き続き、連携し実施していくことが必要。	継続
郷土芸能まつりの開催	昭島市の伝統文化を集積したイベントを通じ、昭島市の魅力を市内外に発信した。新型コロナウイルス感染症以降は、1回中止した以外、目的達成のために方法を変更し実施。引き続きの実施が必要。	継続
昭島観光案内所の総合拠点化	平成29年度に、東京都「新東京案内所」の認定を受け、多言語対応、提供サービスの多様化により、市域全体の案内機能を果たしている。総合拠点としての役割をすでに果たしており、計画からは削除。	終了
創業支援	創業に関する様々な相談に対応可能なワンストップ相談窓口を設置。相談窓口を継続して実施しつつ、関係機関や近隣自治体との連携を図り、支援策の充実を目指すことが必要。	継続
事業承継支援	平成29年度・30年度はセミナーを実施し目標を達成。令和3年度からは、広域連携による関係機関も交えた支援事業を実施。様々な方法で継続した実施が必要。	継続
産業まつりの開催	コロナ前は大きな賑わいを見せ、毎年目標人数を達成できていたが、令和2年度以降は感染防止のため中止。令和4年度は、まつりの本来の目標を達成すべく方法を変更し実施。今後も継続した実施が必要。	継続
昭島市民くじら祭の開催	コロナ前は大きな賑わいを見せ、毎年目標人数を達成できていたが、令和2年度以降は感染防止のため中止。コロナの状況を見つつ、継続した実施が必要。	継続

後期計画について

1. 工業（製造業・建設業）

市民にとって身近な工業となることで昭島の“人財”をつなげる

①市民認知・市民参加の促進

- 住工混在の問題は事業所を昭島に留めにくくする大きな要因である。住宅と工場の共存は今後も避けられないことから、お互いがつながり、対話や協働を行うことで、市民にとって身近な存在であり、誇れる存在となる必要がある。
- 工業という産業単位だけでなく、中核企業、中小企業の個別事業所単位に対する認知度を高め、市民と事業所との協働を増やすことで、工業への市民参加を促進する。

②人材の確保・育成

- 昭島市には日本を代表する中核企業や中小企業が存在し、それらの事業所が将来移転することを防ぎ、今後も市内の事業所が日本の工業力を牽引できる環境づくりが必要である。そのような産業育成について、本計画では人材確保、人材育成を通じて寄与する。

③人材の定着と活用

- 昭島市の企業の特徴として従業員は、市内及び近隣西多摩エリアから通う人が多い。従業員に対する福利厚生サポートをすることで、企業・地域に対する人材の定着につなげる。

具体的な施策

【工 - 1】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
騒音対策、環境改善に関する設備投資への支援	①	商工会、市	継続実施

【具体的な内容】

東京都の補助金を活用し、工場設備の操業改善費やものづくり中小企業者が地域と共生し操業を維持するための市内の移転費用について補助を行う。

【実施期間・実現スケジュール】

継続して実施していく。

【工 - 2】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
技術・商品のPR	①	商工会、市	4社/年

【具体的な内容】

市内事業所の技術や商品のPRを市民向けに行う。庁内市民ロビーにある市内産業展示コーナーにおいて、優れた技術や製品等の紹介を続けながら、さらに市民に広く周知できる展示場所・展示方法を検討していく。

【実施期間・実現スケジュール】

市内産業展示コーナーで年間4社の展示を目標とするとともに、さらに市民に広く周知できる展示場所・展示方法について検討を行う。

【工 - 3】※【観 - 2】と連携

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
昭島の工業力のみえる化	①	商工会、 観光まちづくり協会、 市	継続実施

【具体的な内容】

前期計画中は大学生による「企業パンフレット」、商工会による「昭島市ものづくり工業名鑑」、観光まちづくり協会による「町あるき、ワークショップ」、産業まつりHPでの「ものづくり魅力発見ブース」等を実施した。後期計画でも、昭島市の工業の中核企業、中小企業のみえる化を図り、昭島市の「工業力」を地域内外にPRする方法を具現化する。

【実施期間・実現スケジュール】

上記推進団体と連携を図り、内容や形式等を議論しながら継続して具現化する。

【工 - 4】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
事業所による出前授業の体制確立	①	商工会、 教育委員会、市	調査を令和6年度 までに実施

【具体的な内容】

市内事業所による小・中学校などへの出前授業を支援する。実施可能な事業所と小・中学校などとのマッチングを行う。

【実施期間・実現スケジュール】

令和6年度までに事業所に対するシーズ調査、教育委員会を通じて市内学校のニーズの調査を行い、実現の方法を検討する。

【工 - 5】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
中小企業向け人材確保支援	①	商工会、青梅線沿線地域産業クラスター協議会、市	令和6年度までに具現化

【具体的な内容】

青梅線沿線地域産業クラスター協議会を通して近隣の自治体や商工会と人材確保について連携を図り、企業の人事担当者のスキルアップにつながるセミナーの実施等の支援を実施する。

【実施期間・実現スケジュール】

近隣の自治体や商工会と連携し、実現の方法を検討。令和6年度までに具現化する。

【工 - 6】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
市内事業所に対する勉強会等の開催支援	① ② ③	東京都商工会連合会、商工会、青梅線沿線地域産業クラスター協議会、市	毎年1回以上

【具体的な内容】

市内事業所の交流も意図した勉強会等の開催を支援。テーマは、特定の技術に関するものから人材確保、定着、活用等について実施する。

【実施期間・実現スケジュール】

毎年1回以上行う。

【工 - 7】※【商 - 2】と連携

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
従業員向け福利厚生サービスの充実	② ③	商工会、商店会、勤労市民共済会、市	継続実施

【具体的な内容】

市内の事業所に勤務する従業員に対して、商店や飲食店の割引等のキャンペーンを実施。

【実施期間・実現スケジュール】

現在実施しているサービスを続けながら、市内事業者の活用の拡充を検討していく。

【工 - 8】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
たま工業交流展の開催	① ② ③	東京都商工会連合会、商工会、(公財)東京都中小企業振興公社、市	継続開催

【具体的な内容】

ものづくり企業の優れた技術や製品を一堂に展示し、多種多様な交流による情報交換や技術革新の場を提供し、企業同士のマッチング支援を図る。また、商談会やセミナーを併せて開催することで、経営力向上を図るとともに、工業振興につながる場を提供する。

【実施期間・実現スケジュール】

継続して開催しながら、参加企業にとってさらに魅力・実りある交流展となるよう改善について検討していく。

【工 - 9】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
就職面接会の開催	②	商工会、ハローワーク、しごとセンター多摩、市	2回/年

【具体的な内容】

ハローワーク立川やしごとセンター多摩との共催により、近隣自治体も含む事業所と就職希望者のマッチングを実施。また、就職に係るイベント等の情報発信が常に行えるように情報面の連携を強くしていく。

【実施期間・実現スケジュール】

継続して実施。共催で年2回の開催を目指す。

【工 - 10】 ※新規

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
新製品・新技術の開発、市場開拓等の支援	①	中小企業振興公社、市	継続実施

【具体的な内容】

市内のものづくり中小企業者が、新製品や新技術の開発のため、東京都立産業技術研究センターの設備等を利用した費用の補助を行う。

【実施期間・実現スケジュール】

継続して実施する。

2. 商業

昭島らしさで魅力を向上し、新陳代謝でにぎわいを生み出す

①既存商店の魅力向上

- 守りの商業をしながらも、攻めの商業にも注力していく。人が多く集まる大型商業施設とのタイアップを図るなど、地域の個店の魅力を積極的に発信し、後継者にバトンを渡せる環境をつくる。

②昭島ブランドの開発・販売

- 「あきしまの水」ブランドを活用し、目玉の商品となる昭島ブランドを開発・販売する。地域全体でPR、活用することで昭島市ならではのシビックプライド醸成や地域活性化につなげる。

③若者の創業支援

- 「従来の創業支援」+αで若者の創業者呼び込みを展開する。若者が創業することで、まちに活気をもたらし、新たな来街者を呼ぶきっかけとなる。若者を中心とした世代の新陳代謝を促し、市内空き店舗が新たな個店として生まれ変わる事で商店の新陳代謝を促す。

具体的な施策

【商 - 1】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
大型商業施設とのコラボレーション	①	商工会、市	令和8年度までに実施

【具体的な内容】

市内の商業者が大型商業施設で物産展や「マルシェ」などの販売イベントを実施し、個店の認知度向上と売上増加につなげる。

【実施期間・実現スケジュール】

令和8年度までに実施。

【商 - 2】 ※【工 - 7】と連携（再掲）

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
市内事業所へのPRやキャンペーンの実施	①	商工会、商店会、勤労市民共済会、市	継続実施

【商 - 3】 ※【観 - 5】と連携

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
「あきしまの水」ブランド推進	②	商工会、観光まちづくり協会、商店会、市内事業者、市	継続実施

【具体的な内容】

深層地下水 100%の水道水を市内外にアピールし、本市の魅力を発信していく。また、統一ロゴを用いたPRを実施することで、「あきしまの水」の啓蒙活動を続ける。

【実施期間・実現スケジュール】

商工会、観光まちづくり協会等と協力し、「あきしまの水」ブランドの推進を継続して実施していく。

【商 - 4】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
商店会等活動の支援・魅力向上	①	商工会、商店会、東京都、市	毎年5件以上

【具体的な内容】

商店会等が共同で行うイベントや販売促進活動等の充実を図り、活性化を推進。

【実施期間・実現スケジュール】

毎年補助金を活用し、イベント及び販売促進活動等の使用商店会数5件以上を目標とする。

【商 - 5】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
特色ある個店づくり	① ③	商工会、商店会、市	令和8年度までに実施

【具体的な内容】

商店の独自性や魅力を高めるための個別支援を行いにぎわいと活気に満ちた商業の振興を図る。新しい発想を持った若者の創業を支援するとともに、個店の魅力を発信するなど、市民に愛されるお店づくりを支援する。

【実施期間・実現スケジュール】

令和8年度までに実施する。

【商 - 6】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
創業セミナーの実施	② ③	商工会、創業支援センターTAMA(多摩信用金庫)、市	継続実施

【具体的な内容】

若者が創業することで、まちに活気をもたらし、新たな来街者を呼ぶきっかけとなる。若者を中心とした世代の新陳代謝を促すため、若者を含む創業希望者を呼び込み、若者の創業意欲向上及び昭島市での創業を促すためのセミナーを実施する。

【実施期間・実現スケジュール】

継続して実施する。

【商 - 8】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
まちゼミの実施	①	商工会、商店会、市	継続実施

【具体的な内容】

各店舗が講師となって、専門店ならではの知識、情報などを無料で受講できる「まちゼミ」を実施することにより、市内事業者の活性化を図る。

【実施期間・実現スケジュール】

継続して実施する。

3. 農業

市民とのふれあいを増やし、やりがいと収入を
向上することで持続可能な農業を目指す。

① 農家のやりがいと収入の向上

- 農家の取組を市民や来街者に知ってもらう機会の提供。消費者とのふれあいによる“やりがい”の向上
- 農家の努力が評価されることによる、“やりがい”の向上
- 6次産業化や市内企業等による野菜の消費による収入の確保
- 農地の保全や相続対策をはじめ農家の経営をサポートすることにより、農業従事への不安を軽減
- 限られた農地面積で最大限の収益を上げるため、新技術や施設栽培の導入、農業と加工などの組み合わせによる経営の多角化による、収益性の向上

② 市民が「農」と触れ合う機会の創出

- 「農」に触れることで、昭島の農業に対する関心と認知度の向上
- 実際に「農」に体験・参加することで、食の安全や農業の大切さを知る

具体的な施策

【農 - 1】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
市民が農業に触れ合う機会の創出	① ②	東京都、市	20組の親子 40人

【具体的な内容】

「親子水田体験教室」等の農業体験や援農ボランティア体験など、市民が農業に触れるイベントを企画運営することで、農業に対する関心を高め、理解を深める。

【実施期間・実現スケジュール】

毎年、20組の親子 40人を目標に実施していく。

【農 - 2】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
農家の経営指導をサポート	①	東京都、市、 農業協同組合	認定農業者の経営改善計画の達成、農業経営セミナー参加者数 毎年 20 名

【具体的な内容】

農地の法律関係、農地保全、生産緑地制度、農業技術指導、農業経営への融資について、市や東京都、農業協同組合がそれぞれの専門性を活かしサポートする。また、認定農業者についても農業経営改善計画に沿った5年間の経営サポートを推進団体が協力して行う。

【実施期間・実現スケジュール】

認定農業者については経営改善計画を期間内の達成をめざす。その他のサポートについては多様な形になるが、農業経営に関わるセミナーの参加者 20 名をひとつの評価指標として設定する。

【農 - 3】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
直売マップを活用した周知	① ②	農業協同組合、 市	継続実施

【具体的な内容】

昭島市内外に昭島の農業を知ってもらおうきっかけとするとともに、観光資源としての農業を活用するためのツールとする。

【実施期間・実現スケジュール】

平成 29 年に作成した「農畜産物生産・直売 MAP」を市役所、農業協同組合や観光まちづくり協会等で配布を継続していく。また、電子データを市のホームページに掲載し、変更があった場合は更新して広く周知した。今後も継続していく。

【農 - 4】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
学校給食での地場野菜の使用	① ②	教育委員会、 市、農業協同組 合、農業者団体	毎年 10,000kgを使用

【具体的な内容】

学校給食における地場野菜の使用率を高め、食育につなげる。

【実施期間・実現スケジュール】

毎年、昭島産の野菜、卵、米を約 10,000 kg 学校給食で使用している。今後も食育の観点から継続していく。

【農 - 5】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
市内飲食店や食品加工会社での地場野菜の活用促進	① ②	商工会、農業協同 組合	継続して検討

【具体的な内容】

商業者、農業協同組合などの連携で地元野菜の活用の機会を増やし、販路拡大につなげる。

【実施期間・実現スケジュール】

平成 30 年度までに調査した結果、市内のそば屋、パン屋、レストラン、保育園の給食などで地場の農畜産物が使用されていた。現在も使用されている飲食店を対象に調理された料理などを市のホームページで発信し、地場の農畜産物の活用促進を図る。食品加工会社での地場野菜の活用については、多品種・少量栽培であるため、安定した供給が難しいが、どのような活用ができるか引き続き検討していく。

【農 - 6】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
大型商業施設とのコラボレーション	① ②	農業協同組合、農業 団体、商工会、大型 商業施設、市	毎年 1 回以上開 催

【具体的な内容】

大型商業施設において、昭島産の地場農産物の販売会を実施し、地域内外への PR を行う。現在実施している「昭和の森冬祭り」のような取組を維持、拡大していく。

【実施期間・実現スケジュール】

これまで「昭和の森冬祭り」や「拝島駅まつり」で販売を行い、昭島産の農産物を PR した。今後も毎年 1 回以上開催を基本に取組を維持していく。

【農 - 7】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
認定農業者支援	①	市、東京都	実施農家数 8件/年間

【具体的な内容】

効率的かつ安定的な農業経営を目指す認定農業者に対する農業用器具や資材の購入等の支援のほか、東京都の各種補助事業を活用し、経営改善のために必要な施設整備等を支援し、収益性の向上及び経営の安定化を図る。

【実施期間・実現スケジュール】

毎年8件程度の利用を実施していく。

【農 - 8】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
農業特産品共進会	① ②	農業協同組合、市	出品数 225点/ 年間

【具体的な内容】

市内の新鮮で安全な農畜産物や加工品の展示・販売を通じて食卓に直結する都市農業をアピールする。

【実施期間・実現スケジュール】

毎年開催時に出品数 225点を目指す。

【農 - 9】 ※【観 - 3】と連携

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
農ウォークなどの体験イベントの実施	① ②	観光まちづくり協会、 農業協同組合、市	開催数年間2回 以上、イベント参 加者 20名/回

【具体的な内容】

町あるきイベントの一環で、農家を見学し、都市農業の実態について知り、収穫等の体験をすることで、昭島市の農業に対する理解を深める。

【実施期間・実現スケジュール】

平成29年度より、体験型のイベント開催数を毎回20名の集客で年間2回以上を実現し、実施している。これは農ウォークだけでなく、町あるきイベントに「農」の要素を加える形での実施も含んでいる。今後も年間2回以上を維持していく。

4. 観光

連携のハブとして、昭島のブランディングの中核を担う

①観光資源の開発と活用

- 昭島市における観光スタイルは着地型観光が最適といえる。産業観光をはじめ近隣市ではできない体験を昭島市でできることがまさに昭島市のブランドであるといえる。
- 産業観光をはじめ、農業資源も活用の対象であり、市内大型商業施設に来店した来街者に向けた体験イベントや簡易ツアーなどを実施。

②産業間連携と広域連携

- 「農業×製造業」や「製造業×商業」などさまざまな産業間連携が考えられるが、観光の観点からコラボレーションをしかけていくことが重要であり、産業間連携から新しいお土産や「あきしまの水」ブランドに係る商品などを開発する。
- ロケーションサービスや、町あるきイベントにおける近隣市との連携による魅力の増加を目指す。

③シティプロモーションの促進

- フォトコンテストやロケーションサービス等を通じてまちの魅力を発信。外部に PR を行う取組を実施することによって、今後の来街者増加、定住促進につなげる。

具体的な施策

【観 - 1】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
市内製造業の見学受け入れ体制の充実	①	商工会、 観光まちづくり協会、市	9件/年

【具体的な内容】

町あるきの一環で、見学可能な市内製造業の工場や研究所の拡充を目指す。

【実施期間・実現スケジュール】

年間9件の受け入れ先を訪問し町あるきを実施する。

【観 - 2】 ※【工 - 3】と連携（再掲）

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
昭島の工業力のみえる化	① ②	商工会、 観光まちづくり協会、市	継続実施

【観 - 3】 ※【農 - 9】と連携（再掲）

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
農ウォークなどの体験イベントの実施	① ②	観光まちづくり協会、 農業協同組合、市	開催数年間 2 回 以上、イベント参加者 20 名/回

【観 - 4】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
観光資源の掘り起し	① ②	観光まちづくり協会、 市	令和7年度までに 新たな資源を発掘

【具体的な内容】

前期計画中は、青梅線沿線の自治体と連携して「女子旅」「謎解き」「インスタグラムで映える写真」「発酵」等のキーワードで観光資源を掘り起しを行った。後期計画でも、新たな観光資源を掘り起すとともに、さらなる広域連携が可能か検討していく。

【実施期間・実現スケジュール】

新たな観光資源は常に探索することになるが、令和7年度をめどに、どのような観光資源があり、実際に事業に活用できるか検討する。

【観 - 5】 ※【商 - 3】と連携（再掲）

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
「あきしまの水」ブランド推進	① ② ③	商工会、観光まちづくり協会、商店会、市内事業者、市	継続実施

【観 - 6】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
シティプロモーション施策の充実	②	商工会、 観光まちづくり協会、 市	ロケ実績 100 件/ 年

【具体的な内容】

ロケーションサービス、昭島の魅力を発信する写真を募集する事業等既存事業や SNS の活用含め、発信の強化を行う。

【実施期間・実現スケジュール】

ロケーションサービスについて、毎年 100 件の実績を目指す。

【観 - 7】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
観光まちづくり協会との連携・支援	① ② ③	観光まちづくり協会、市	観光案内所利用者 10,000 人/年間

【具体的な内容】

観光活動やまちづくりの充実を図り、広報活動、イベント、観光案内等市内外へ昭島市の魅力を発信するため、観光まちづくり協会への連携・支援を行う。

【実施期間・実現スケジュール】

毎年、観光案内所利用者 10,000 人を目指す。

【観 - 8】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
郷土芸能まつりの開催	① ② ③	商工会、観光まちづくり協会、市	来場者数 50,000 人/回

【具体的な内容】

地域に脈々と引き継がれてきた伝統・文化を一堂に集めた郷土芸能の祭典を開催し、市民の郷土への愛着心と地域のふれあいを高めるとともに、市内外からの集客を図り、昭島の魅力を発信する。

【実施期間・実現スケジュール】

来場者数 50,000 人を目指す。

【観 - 9】※新規

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
観光マップ作成	① ② ③	観光まちづくり協会、市	令和5年度に実施

【具体的な内容】

市の魅力を発見又は再発見してもらうきっかけづくりとするため、観光資源等を集約した観光マップを作成・活用し、来訪者を呼び込む。

【実施期間・実現スケジュール】

令和5年度に作成し、その後、3年ごとに定期的に更新していく。

【観 - 10】※新規

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
広域観光の推進	① ②	観光まちづくり協会、 市、近隣市	令和6年度に実施

【具体的な内容】

関係団体と連携したネットワーク形成による、広域観光の推進を図る。

【実施期間・実現スケジュール】

近隣市等と調整し、令和6年度の実施を目指す。

5. 基本戦略に基づく共通の取組み

①連携の推進

- 「あきしまの水」など、工業、商業、農業、観光による産業間連携で昭島ブランドを確立し、広域連携で広い視野の産業振興を推進する。

②健全な世代交代の促進

- 各産業の新陳代謝をめざし、事業承継のような世代交代の環境を整備するとともに、創業を支援し、新しい事業者を生み、育てる仕組みをつくる。

③市民に身近な産業づくりの推進

- 産業と都市の共存共栄をめざし、市民に対する各産業の認知度を高め、触れ合いを増やし、各産業に対しても市民との関係づくりの機会を増やしていく。

具体的な施策

【共 - 1】※再掲

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
「あきしまの水」ブランド推進	① ② ③	商工会、観光まちづくり協会、商店会、市内事業者、市	継続実施

【共 - 2】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
創業支援	②	商工会、東京都立産業技術研究センター、(公財)東京都中小企業振興公社、創業支援センターTAMA(多摩信用金庫)、近隣自治体、市	相談者数 30人/年間

【具体的な内容】

創業に関する様々な相談に対応可能なワンストップ相談窓口を設置。事業計画の構築・資金調達・創業塾・セミナー等の創業に必要な要素に応じた適切な支援を、関係機関との連携を活かして行う。また近隣の自治体をはじめとする多摩地域における連携を実施し、効率的かつ効果的な支援を行う。

【実施期間・実現スケジュール】

毎年相談者数、年間 30 人

【共 - 3】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
事業承継支援	③	近隣自治体、商工会、事業承継・引き継ぎ支援センター、地域金融機関、市	相談件数 8 件／年

【具体的な内容】

商工会や関係機関等などと連携し事業承継の周知・啓発及び創業希望者の掘り起こしを行い、事業者の円滑な世代交代の支援に努めながら地域の活性化に繋げる。また近隣の自治体をはじめとする多摩地域における連携を実施し、効率的かつ効果的な支援を行う。

【実施期間・実現スケジュール】

相談件数年 8 件を目指す。

【共 - 4】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
産業まつりの開催	① ② ③	商工会、農業協同組合、農業者団体、観光まちづくり協会、市	継続実施

【具体的な内容】

市民が昭島市の産業（商業・工業・建設業・農業・観光業）を体感し、事業者と市民がお互いに交流を深める機会となるよう企画・実施する。

【実施期間・実現スケジュール】

継続実施するとともに、さらに市民と事業者をつなぐ機会となるよう内容の検討を行う。

【共 - 5】※新規

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
産業活性化のための協創プロジェクト	① ② ③	商工会、観光まちづくり協会、大学、金融機関、市	活動継続

【具体的な内容】

多摩大学との連携協定を軸に、市内外の産官学民の関係団体等多様なステークホルダーと連携し、地域の課題解決及び地域の振興・活性化を目指す。

【実施期間・実現スケジュール】

産業振興計画を具現化すべく、多様なステークホルダーとの連携会議体である協創プロジェクトの活動を継続していく。

【共 - 6】※新規

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
大手企業との連携	① ③	商工会、観光まちづくり協会、市内事業者、市	令和5年度に実施

【具体的な内容】

市内の主要な上場企業との連携の仕組みを構築し、まちづくりの課題解決に向け、官民連携のもと取り組む。

【実施期間・実現スケジュール】

まちづくり企業サミットを令和5年度に実施し、その後、分野ごとに事務担当者間で課題解決に向けた検討を行う。

【共 - 7】※新規

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
地域産業デジタル化に向けた取組の推進	② ③	商工会、市	令和5年度に実施

【具体的な内容】

東京都の補助金を活用し、市内中小事業者のデジタル化に係る費用を補助し支援することで、地域産業のデジタル化を推進する。

【実施期間・実現スケジュール】

令和5年度に実施する。

【共 - 8】※新規

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進	① ③	商工会、観光まちづくり協会、市内事業者、市(環境部)	令和8年度までに40社

【具体的な内容】

企業と連携し、環境配慮事業者ネットワーク加盟事業者数を増やすことで、地域での環境配慮への取組の向上を図る。(環境配慮事業者ネットワークとは、昭島市内の事業者が環境負荷低減に向けた取組の情報を交換し、環境配慮の取組の更なる向上を目指すことを主な目的とした組織)

【実施期間・実現スケジュール】

令和8年度までに40社を目指す。

【共 - 9】 ※再掲

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
郷土芸能まつりの開催	① ② ③	商工会、 観光まちづくり協会、 市	来場者数 50,000 人/回

【共 - 10】

施策概要	基本目標	推進団体	目標・指標
昭島市民くじら祭の開催	① ② ③	商工会、市	来場者数 80,000 人/回

【具体的な内容】

ふるさとのまつりであるくじら祭をとおして、昭島市の産業振興を図る。

【実施期間・実現スケジュール】

継続して実施する。

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
昭島市産業振興計画						計画の見直し				新規計画の策定
全体				新型コロナウイルス感染症の影響強くあり		これまでの成果の検証				これまでの成果の検証
工業	<ul style="list-style-type: none"> 工業力の見える化に向けた協議開始 騒音対策、環境改善支援に関する補助実施 	<ul style="list-style-type: none"> 工業力の見える化策の具現化 			<ul style="list-style-type: none"> 従業員向け福利厚生サービスの充実化 	<ul style="list-style-type: none"> 人材確保支援について、方向性の変更を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 工業力の見える化策の具現化策を引き続き検討・実施 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所による出前事業の体制確立のための調査を実施 中小企業向け人材確保支援の具現化 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所による出前事業の体制確立 	
商業	<ul style="list-style-type: none"> まちゼミの開始 空き店舗活用補助を開始 「あきしまの水」のブランド化に向けた具体的な検討開始 	<ul style="list-style-type: none"> フードグランプリを終了 広域連携でまちコン等イベントを実施(令和元年度まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗活用補助を終了 		<ul style="list-style-type: none"> 市内事業所へのPRやキャンペーンの充実化 		<ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設とのコラボレーションの検討 あきしまの水ブランディングの推進方法検討 	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある個店づくり施策の内容検討 		<ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設とのコラボレーションの実施 特色ある個店づくり施策の実施
農業	<ul style="list-style-type: none"> 直売所マップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 市内飲食店や食品加工会社での地場野菜の活用促進方針決定 	<ul style="list-style-type: none"> 市内飲食店や食品加工会社での地場野菜の活用促進施策の実施 		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に対応した共進会の実施(令和3・4年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 直売マップを市のHPへ掲載した。配布も継続して実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地場の農畜産物を使用している飲食店をHPで発信 			<ul style="list-style-type: none"> 直売マップ更新について検討
観光	<ul style="list-style-type: none"> 工業力の見える化に向けた協議開始 「あきしまの水」のブランド化に向けた具体的な検討開始 新東京案内所の認定を取得 	<ul style="list-style-type: none"> 広域連携による観光資源の掘り起し(令和4年度まで) 工業力の見える化策の具現化 		<ul style="list-style-type: none"> SNSを活用した昭島の情報発信を強化 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に対応した郷土芸能の魅力発信を実施(令和3・4年度) ちかっぱーカプセルトイ開始 	<ul style="list-style-type: none"> 広域観光の実施を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 工業力の見える化策の具現化策を引き続き検討・実施 観光マップの作製 広域観光の実施を調整 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな観光資源の掘り起し 広域観光の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 掘り起こした観光資源について事業への活用を検討 	
共通		<ul style="list-style-type: none"> 産業活性化のための協創プロジェクト設置 まちづくり企業サミット開催 		<ul style="list-style-type: none"> 事業承継・創業支援の広域連携を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 事業承継・創業支援の広域連携を開始(令和5年度まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 事業承継個別相談の開始 コロナ禍に見合った方法での産業まつりを実施 第2回まちづくり企業サミット検討 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回まちづくり企業サミット実施 地域産業デジタル化に向けた取組実施 カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進 			